ある一日

浮遊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ある一日

【Ｎコード】
Ｎ４２００ＢＡ

【作者名】
浮遊

【あらすじ】
私は残り限られた日々のある一日を幼き少女と過ごす。

「おじちゃん遊ぼ？」
遠慮がちに少女は――歳は５つくらいだろうか――私の随分下から舌足らずな口調で話しかけてくる。

おじちゃん…か。

少し自嘲ぎみに笑い、しゃがみこんで少女に微笑みかける。
「何して遊ぼうかな？」
そう言うと、目の前にあるものが差し出される。
どうやらキャッチボールをしたいようだ。

それを受け取って距離をとる。

「いくよーっ」
そういって山なりにボールを投げて、優しく転がす。

それを少女は上手にとって、これまたきれいなフォームで投げ返した。

そしてそれを無言で何度も何度も繰り返した。

もし、あのときもこんな風に受け止めていられたらな……。

「おじちゃん…？」
そう呼ばれハッとしたときには
ボールは自分の随分と後ろに転がっていた。

「ごめんよ。」
そう謝って、取りにいく。
やっとボールにたどり着いて振り返ると、少女はベンチに座り込んでいた。

「疲れちゃったかな？」
「……うん。でも楽しかったの」
「そうか。君は楽しかったか。」
そう微笑んで頭を撫でる。
気がつけばもう日も傾いていた。
そろそろかな……。
「そろそろお家に帰りなさいな。パパやママも心配するよ。」
「うん……。」
なにか言いたそうにこちらを見つめて、またうつむいて返事をした。

私はそんな少女を愛らしく思い、今日二人で過ごした思いを目に焼き付けるように目を閉じた。
しばらく二人で何をするでもなく、座っていると、
「愛花〜。」
そう呼ぶ女性の声がした。
少女は顔をあげ、
「ママー、今いくよーっ」
そう叫んだ。
そして意を決したように、ベンチから立ち上がる。

「ばいばい」
そう言うと少女は振り返って、不安げに呟いた。
「また会えるよね？」
私はその言葉にハッとして少女を見つめ返す。

そこには涙目でこちらを見つめる少女がいた。
――せめてもの罪滅ぼしをするのなら今だろうか――
言葉を紡ぐ。
「うん、いつかまた会えるよ。だから泣くな」
微笑み、頭を撫でる。
我ながら平凡な台詞だと思う。
でも願わくば、叶うのなら。
会いたいと強く思う。
もう一度強く言う。
「愛花、約束だ。また会おう。」
そして背中を押す。
不安は少し消えたのか、母のもとへ走り出す。
「絶対約束だよ。パパ」
走り際に聞こえた声は幻聴なのか、本当なのか、分からないが、それでも幸せに思った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4200ba/

ある一日

2012年1月11日01時55分発行